

ハンセン病に関する県民意識調査

結果概要版



みんな
で描く
ひとつ
の道

岡山県

平成20年 3月

■調査目的

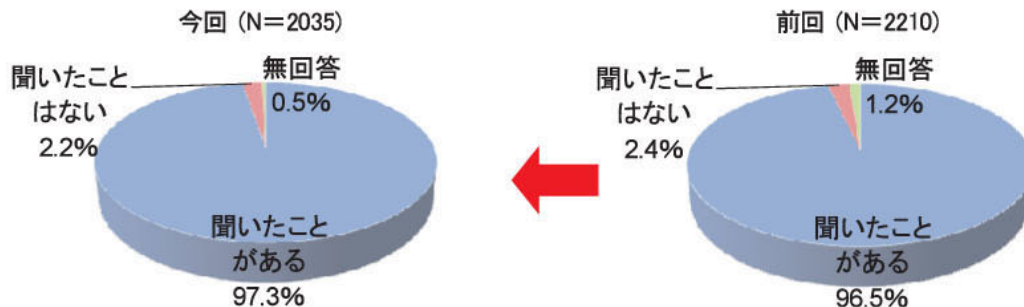
平成 14 年度に県民意識調査を実施してから5年が経過したことから、再度、県民意識調査を実施し、かつてハンセン病を病んだ方に対する偏見や差別の実態、及び県民のハンセン病療養所入所者との交流状況について実態を把握するとともに、前回の調査と結果を対比することによって、本県でこれまで実施してきた施策の効果を検証し、また、今後のハンセン病対策を実施するための基礎資料とすることを目的として調査を実施した。

■調査概要

- 調査区域 岡山県全域
 - 抽出方法 二段階無作為抽出
 - 調査対象 15 才以上の県内在住者
 - 調査方法 郵送配布・郵送回収による
郵送調査法
 - 標本数 4,000 人
 - 調査期間 平成 19 年 8 月～9 月
 - 回収数 (率) 2,035 人 (50.9%)
- ※Nは回答者数。 前回調査は平成 15 年 1 月～2 月実施で回収数 2,210 人。
※小数点以下第 2 位を四捨五入しており、比率の合計が 100%にならないことがある。

■「ハンセン病」病名認知状況

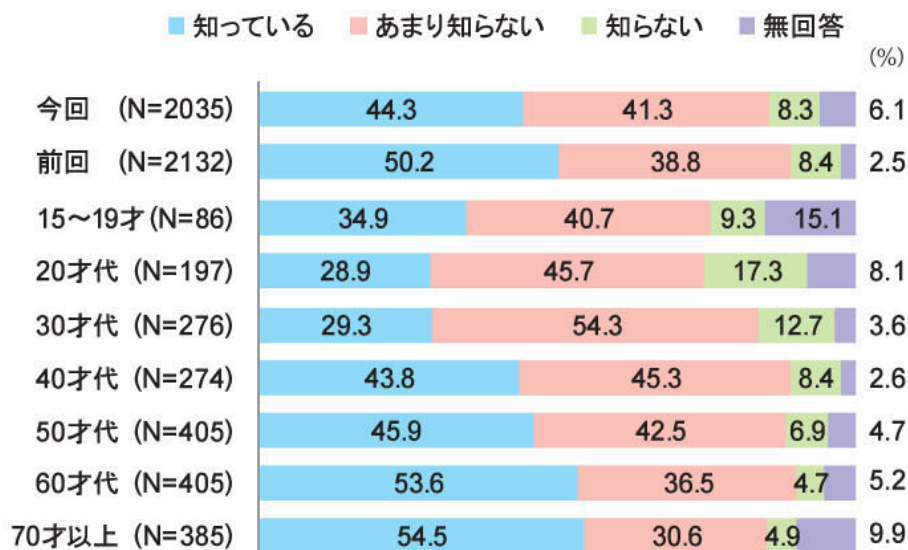
問. あなたは「ハンセン病 (らい)」という病気の名前を聞いたことがありますか。(どちらかに○)



ハンセン病の病名を知っている人の割合は 97.3%と大きく、15 才以上の県民のほとんどすべてが病名を知っている。前回調査結果と概ね同程度の割合となっており、大きな変化はみられない。

■「ハンセン病」の病名を「聞いたことがある」と答えた方の「ハンセン病」について知っていると認識している状況

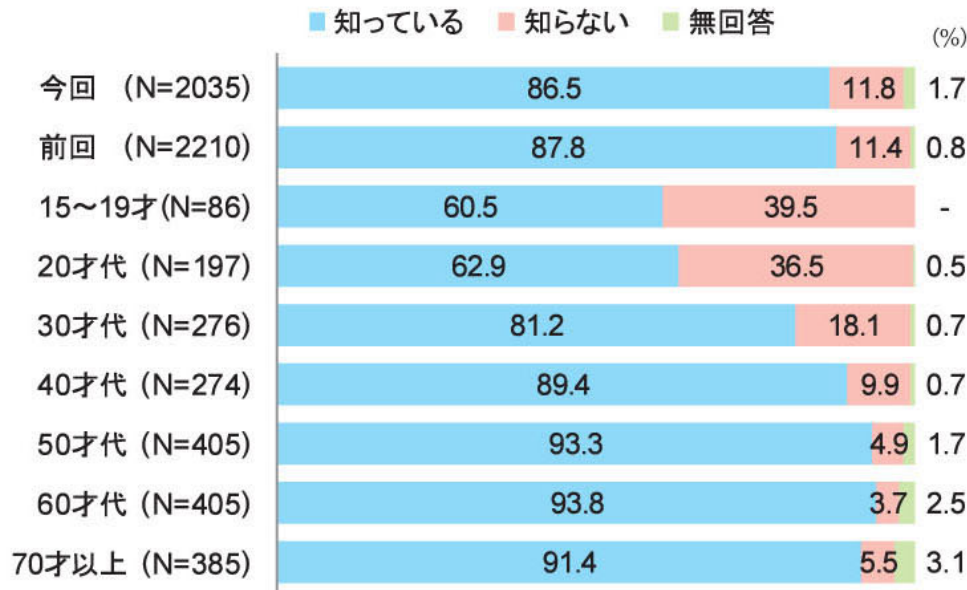
問. あなたはハンセン病がどのような病気であるか知っていますか。(ひとつだけに○)



ハンセン病がどのような病気であるかを「知っている」人の割合は 44.3%であり、前回調査と比べて約 6%ポイント低下している。年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「知っている」人の割合が大きくなっている。

■ハンセン病療養所が岡山県にあることの認知

問. あなたはハンセン病療養所が岡山県にあることを知っていますか。(どちらかに○)

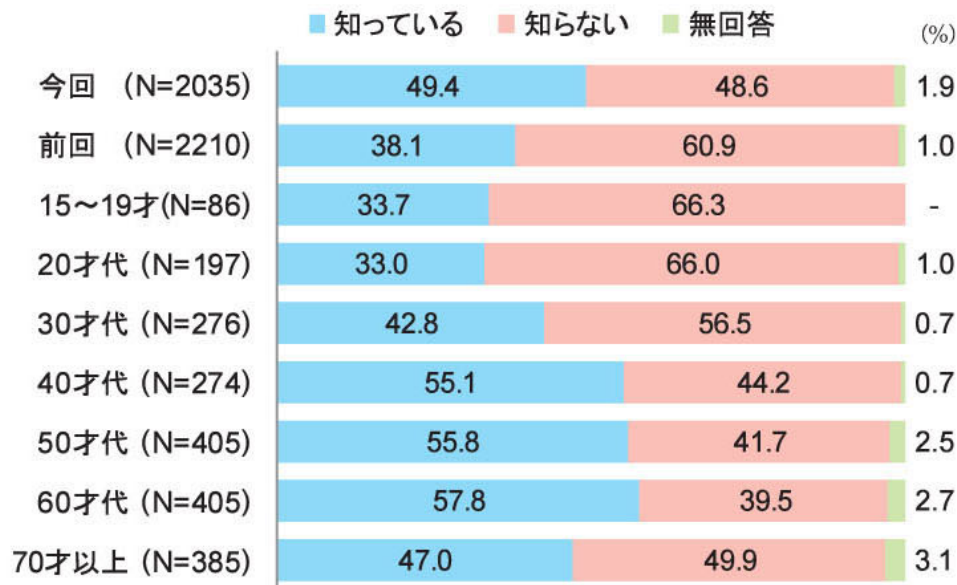


ハンセン病療養所が岡山県にあることを「知っている」人の割合は86.5%であり、前回調査結果(87.8%)と概ね同様の結果となっている。

年齢別にみると、年齢が低下するにつれて「知らない」人の割合が大きくなる傾向がみられる。特に20才代以下では「知らない」人の割合が約36～39%となっている。

■療養所内の結婚に際し、断種が条件とされていたことの認知

問. あなたはかつて療養所内では、結婚の時に「断種(=子どもを産めなくする手術をすること)」を条件とされていたことを知っていますか。(どちらかに○)

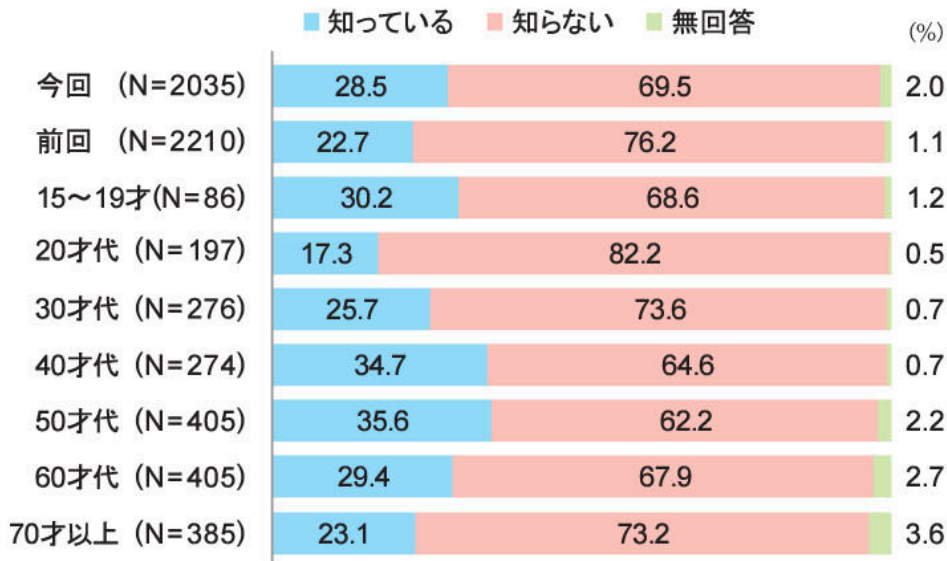


療養所内の結婚に際し、断種が条件とされていたことを「知っている」人の割合は49.4%と約半数である。前回調査結果では「知っている」人の割合は38.1%であったことから、認知割合が10%ポイント以上高まっている。

年齢別にみると40～60才代で「知っている」人の割合が大きくなっている。

療養所内で軽症患者が半強制的に作業をさせられていたことの認知

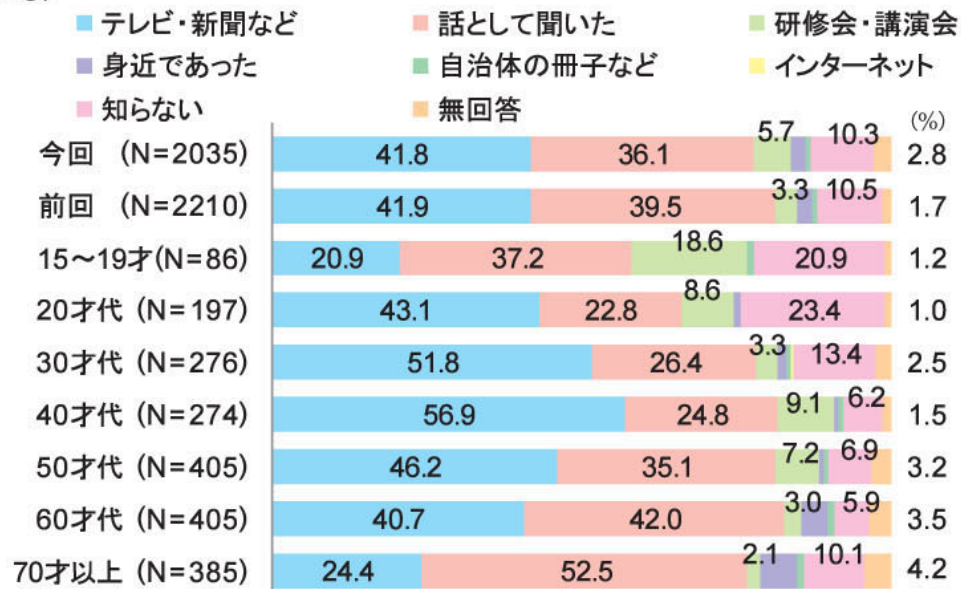
問. かつて療養所内では、軽い症状の患者が重い症状の患者の看護や施設運営の作業などを半強制的にさせられていたことを、あなたは知っていますか。（どちらかに○）



療養所内で軽症患者が半強制的に作業をさせられていたことを「知っている」人の割合は28.5%と低い。しかし、前回調査結果(22.7%)と比べると、認知割合が高まっている。年齢別にみると、50才代をピークとして、年齢が低下するにつれて「知っている」人の割合が小さくなる傾向がみられるが、15～19才のみは30.2%が「知っている」と回答している。

ハンセン病患者・家族への差別があったことの認知状況と経路

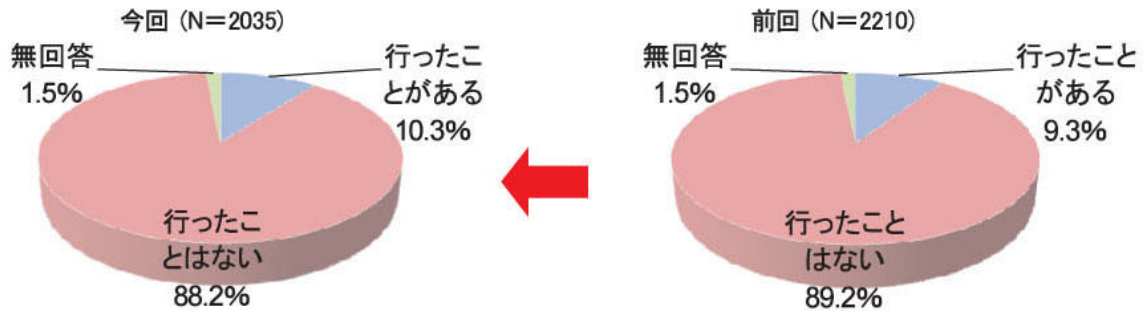
問. あなたは、かつてハンセン病患者だけでなく、その家族も偏見や差別を受けたことを知っていますか。（ひとつだけに○）



かつてハンセン病患者だけでなく、その家族も偏見や差別を受けたことを知っているか否かを尋ねたところ、「テレビ・ラジオ・新聞・本などから知った」が41.8%で最も多く、何らかの形で「知っている」と答えた人は合わせて86.9%である。前回調査結果では何らかの形で「知っている」人の割合は87.8%であり、全体的には大きな違いはみられない。「知らない」人の割合は低年齢層でやや大きく、20才代以下では20%以上の人が「知らない」と回答している。

■ハンセン病療養所訪問の有無

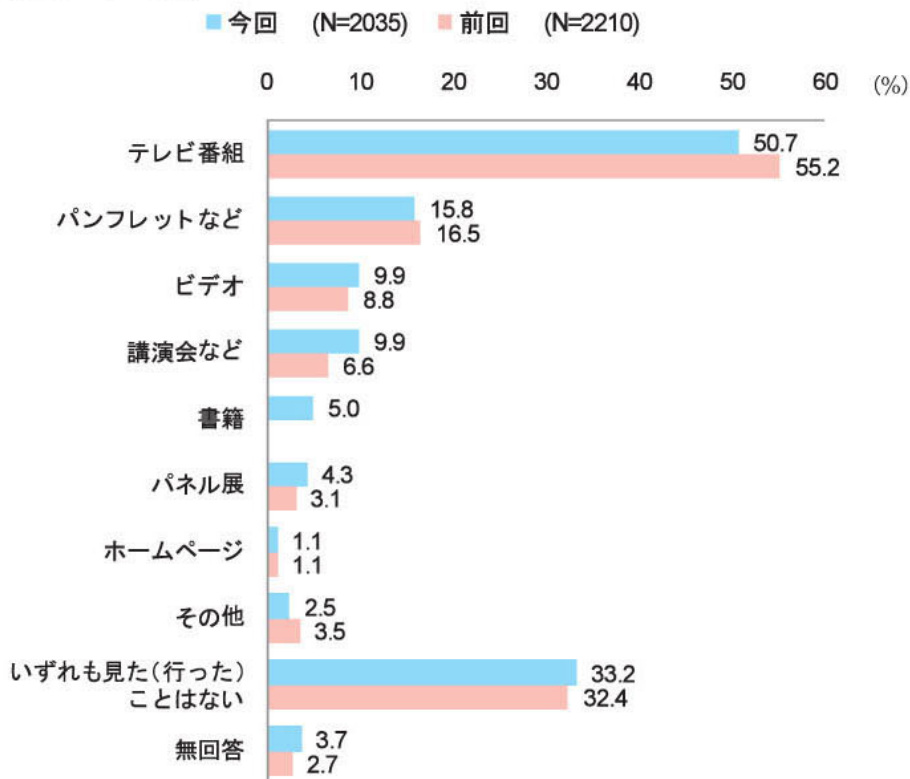
問. あなたは、ハンセン病療養所へ行ったことがありますか。(どちらかに○)



ハンセン病療養所への訪問経験を尋ねたところ、「行ったことがある」人が10.3%である。前回調査では9.3%であり、今回調査との差はわずかに1%ポイントと小さいが、男女別、年齢層別、地域別にみると、ほとんどすべての層で「行ったことがある」人の割合が今回調査の方が若干大きくなっていることから、ハンセン病療養所への訪問経験者は最近5年間に微増したものと推察される。

■実際に体験したことのあるハンセン病に関する岡山県の事業

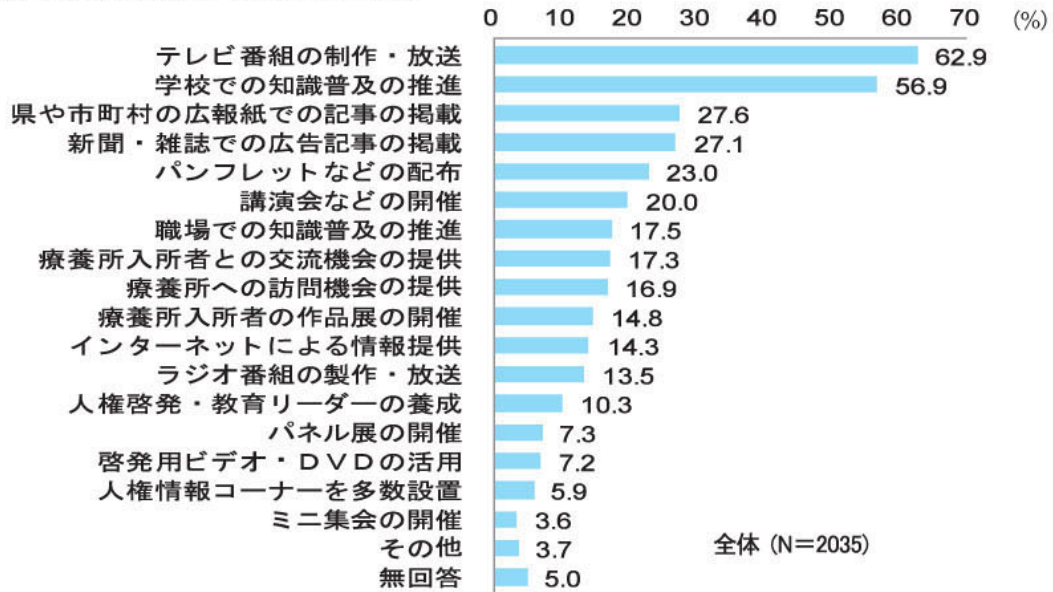
問. 岡山県は、県民一人ひとりがハンセン病に対する偏見や差別の解消に向けて正しい知識と理解を持ってもらうために、様々な活動を行っています。次の中であなたが実際に見たもの、行ったことがあるものをすべてお知らせください。(○はいくつでも)



岡山県が実施しているハンセン病対策事業の中で実際に見たもの、行ったことがあるものを尋ねたところ「テレビ番組」が最も多く50.7%、次いで「パンフレットなど」15.8%、「ビデオ」9.9%、「講演会など」9.9%の順である。前回調査結果と比べると、「テレビ番組」が減少し、「講演会など」が6.6%から9.9%へ増加している。

■今後望まれる岡山県の取り組み

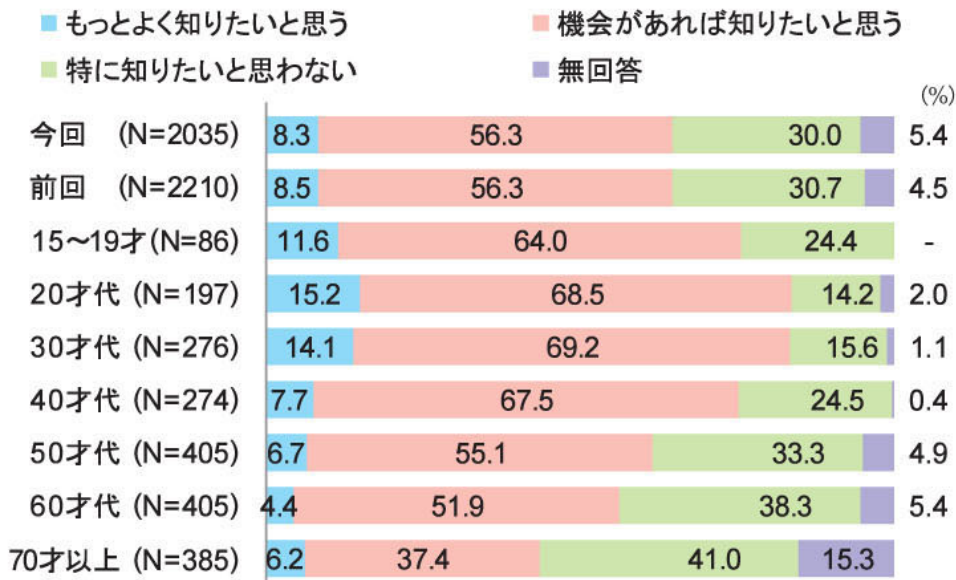
問. あなたは今後、ハンセン病への偏見や差別の解消のための岡山県の取り組みとして、どのような活動を行うことがよいと思われますか。(〇はいくつでも)



ハンセン病への偏見や差別の解消のための岡山県の取り組みとして望まれる事業を尋ねたところ、「テレビ番組の制作・放送」62.9%と「学校での知識普及の推進」56.9%が特に多く、次いで「県や市町村の広報紙での記事の掲載」27.6%、「新聞・雑誌での広告記事の掲載」27.1%、「パンフレットなどの配布」23.0%、「講演会などの開催」20.0%の順であり、多様な施策の展開が望まれている。

■ハンセン病に関する知識・情報への欲求の有無

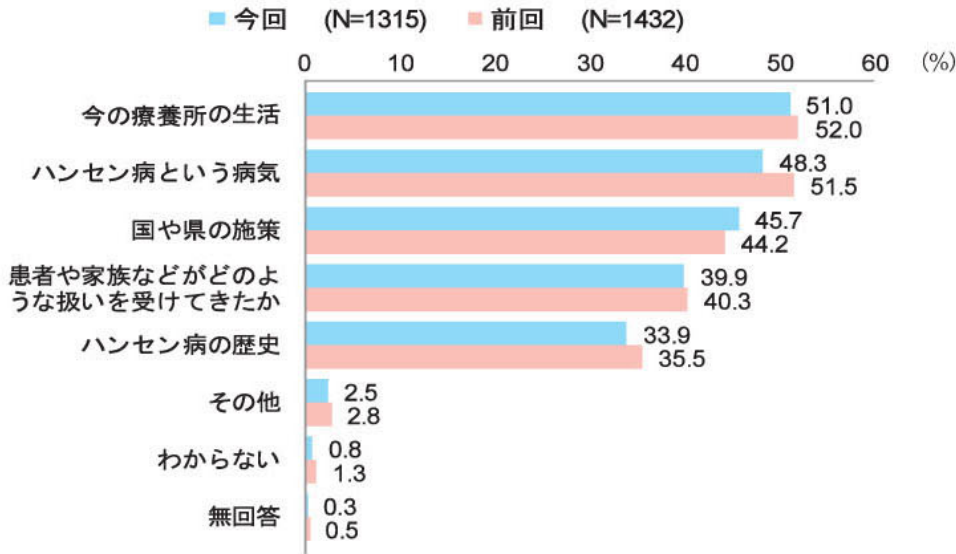
問. あなたはハンセン病に関することを、知りたいと思いますか。(ひとつだけに〇)



ハンセン病についての知識・情報への意欲をみると、「もっとよく知りたい」人が8.3%、「機会があれば知りたい」人が56.3%であり、合わせて64.6%の人が知りたいと思っている。前回調査では「もっとよく知りたい」人が8.5%、「機会があれば知りたい」人が56.3%であり、今回の結果は前回とほぼ同じとなっている。年齢別にみると、若い人ほど「もっとよく知りたい」「機会があれば知りたい」と思っている人が多い。

■ 「知りたい」と答えた方のハンセン病で知りたい項目

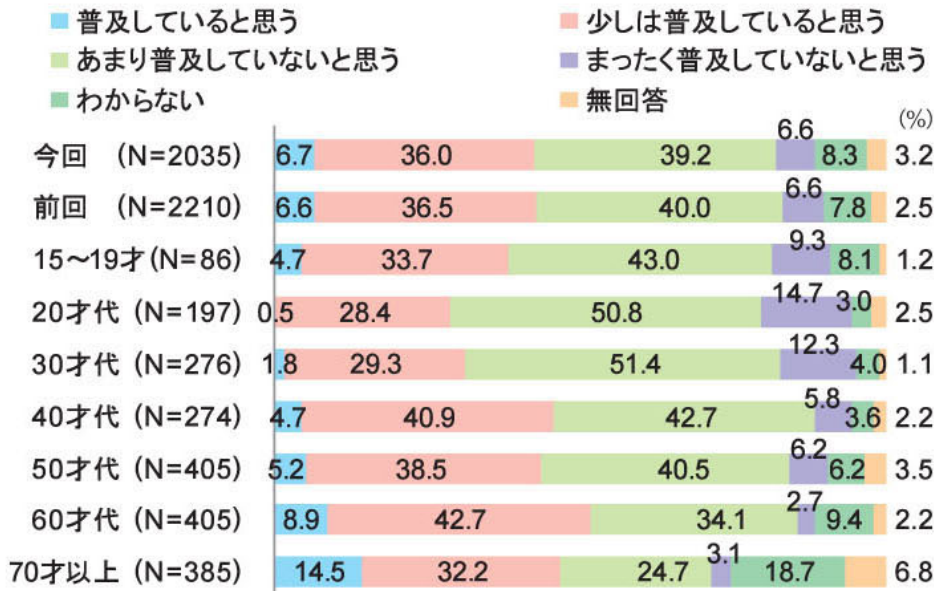
問. あなたはハンセン病について、どのようなことを知りたいと思いますか。(〇はいくつでも)



ハンセン病について「もっとよく知りたい」または「機会があれば知りたい」と思っている人に、知りたい内容を尋ねたところ、「今の療養所の生活について」が最も多く51.0%、次いで「ハンセン病という病気について」48.3%、「国や県の施策について」45.7%、「患者や家族がどのような扱いを受けてきたかについて」39.9%、「ハンセン病の歴史について」33.9%の順である。前回調査結果と比較すると、挙げられている割合の順序等には差はみられないが、「国や県の施策について」以外の項目では、挙げられている割合がわずかに小さくなっている。

■ ハンセン病に関する情報の普及状況

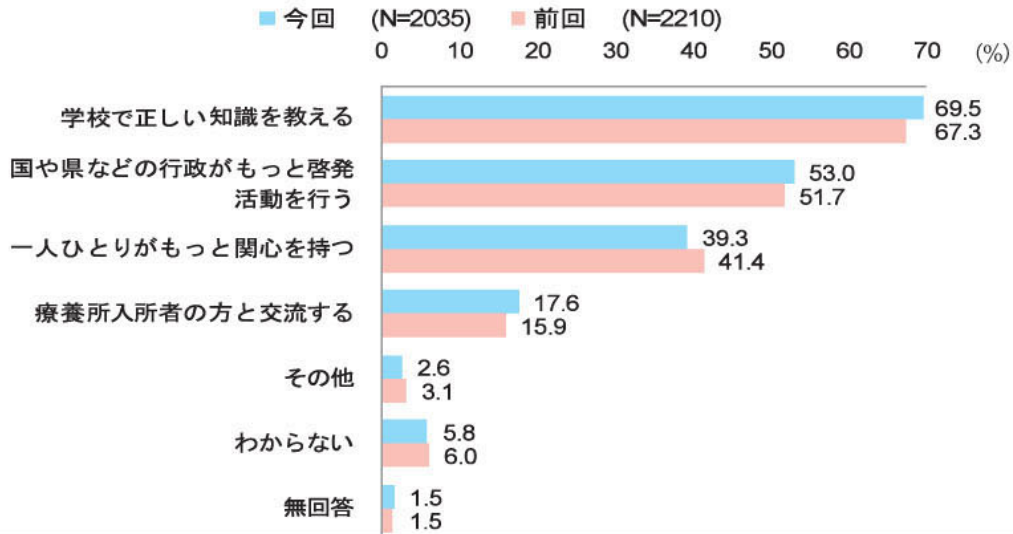
問. あなたは、現在ハンセン病に関する正しい知識や情報が普及(=広く行きわたること)していると思いますか。(ひとつだけに〇)



現在ハンセン病に関する正しい知識や情報の普及状況をどのようにみているかについて尋ねたところ、「普及していると思う」が6.7%、「少しは普及していると思う」が36.0%で合わせて42.7%、「あまり普及していないと思う」が39.2%、「まったく普及していないと思う」が6.6%で合わせて45.8%であり、後者の合計が前者の合計を若干上回る結果となっている。前回調査との比較では、大きな違いはみられない。年齢別にみると、「普及していない」としている人は、総じて年齢が若くなるほど多くなっている。

■ 偏見や差別の解消のための対策

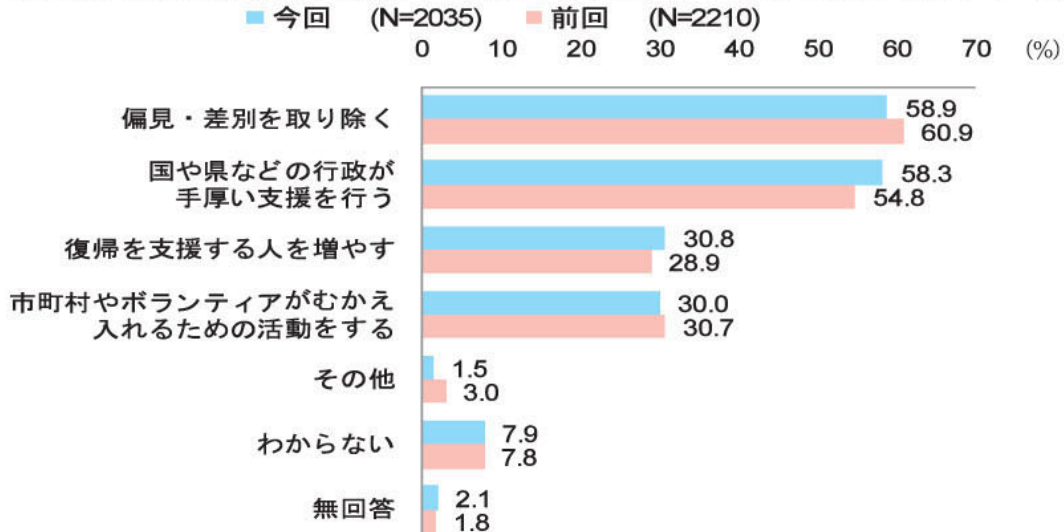
問. あなたは、ハンセン病への偏見や差別の解消のために何をしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)



ハンセン病への偏見や差別の解消のために何をしたらよいと思うかを尋ねたところ、「学校で正しい知識を教える」が最も多く69.5%、次いで「国や県などの行政がもっと啓発活動を行う」53.0%、「一人ひとりがもっと関心を持つ」39.3%、「療養所入所者の方と交流する」17.6%の順である。前回の調査結果と比べても大きな違いはみられない。

■ 療養所入所者の社会復帰のために必要な対策

問. あなたは、療養所入所者が社会復帰をするために、どうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)



療養所入所者の社会復帰のための方策を尋ねたところ「偏見・差別を取り除く」が58.9%、「国や県などの行政が手厚い支援を行う」が58.3%と多く、次いで「復帰を支援する人を増やす」30.8%、「市町村やボランティアがむかえ入れるための活動をする」が30.0%の順である。

前回調査結果と比べると、「国や県などの行政が手厚い支援を行う」が54.8%から今回は58.3%へ若干増加している。

岡山県保健福祉部健康対策課

岡山市内山下 2-4-6 TEL086-226-7331

岡山県のホームページ <http://www.pref.okayama.jp/>

ハンセン病啓発ホームページ「みんなで描くひとつの道」 <http://www.hansen-okayama.jp/>